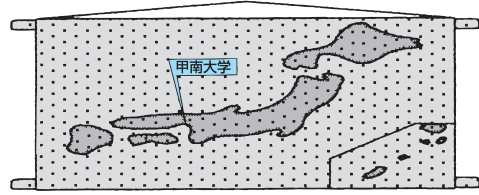


Zephyr

〈第53号〉

ゼフィール・にしかぜ


<http://www.kilc.konan-u.ac.jp>

《テーマ＊学生がよく間違える外国語の表現》

☆所長からのメッセージ 「外国語学習を通じて鍛えられる母語の文章力」……………	中村 典子 ……………	2
〔英 語〕間違いやすい・誤解しやすい英語の表現 ……………	津田 信男 ……………	3
〔ド イ ツ 語〕「学生がよく間違える言語の表現」……………	柳原 初樹 ……………	5
〔フランス語〕フランス語学習者へのアドバイス～よくある間違いについて～ ……………	ディディエ・シッシュ ……………	7
〔中 国 語〕中国語のシンプルな文法をしっかりと把握すること ……………	石井 康一 ……………	9
〔日 本 語〕留学生にとって難しい日本語表現 ……………	富阪 容子 ……………	11

甲南学園創設者

平生鈞三郎

「世界に通用する

紳士・淑女たれ」



「英語＋１（第２外国語）」
教育プログラム

「使える外国語教育」

国際言語文化センター機関紙（年３回刊行）

間違いを恐れず外国語に挑戦しよう

この３年間甲南生が留学している複数の提携校を訪問し、沢山の学生にインタビューを行いました。その結果、日本人学習者は他の国から来ている留学生と比べると、文法には強いがスピーキングとなるとあまり発言ができなくなってしまう傾向にあるようです。最も大きな原因は間違いを恐れる事だと思います。他の国から来ている留学生（特に南米や中近東の留学生）は、たとえ語学のレベルが低くても、間違いを気にせずどんどん自分の意見を述べる事ができます。そして、そのような事の繰り返し、語学の上達に繋がるのです。一方、日本人の学習者は、まず日本語から発想して、それに対応する外国語は何かと考え、結局適切な表現が見つからないと黙ってしまうのです。例えば、英語で「曖昧な」と言いたい時に、学習者はすぐに「曖昧」は英語で何と言うのだろうか考え、その考えている間に会話が成立しなくなってしまう。しかしその場合、日本語イコール英語で考えるのではなく、発想を変える事により、もっと発話することができます。「曖昧」は、“not clear” で十分通じますし、この表現は中学生でも知っています。同じようなことが他の言語にも当てはまります。これからも外国語をどんどん使う機会を増やし、間違いを恐れずに語学の向上に努めましょう。（津田 信男）

外国語学習を通じて鍛えられる母語の文章力

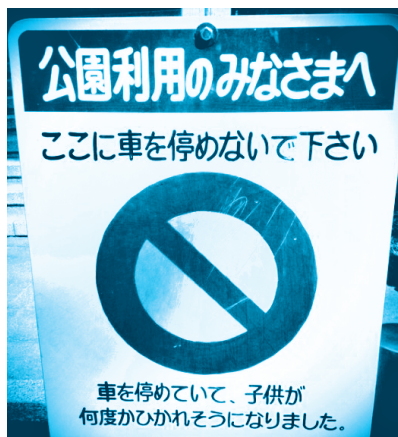
国際言語文化センター所長 中 村 典 子

国際言語文化センターは、開設（1994 年）以来、英語に加えて、もう一つの外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）を必修科目として学ぶカリキュラムを提供しています。グローバル化が否応なしに進みつつある 21 世紀において「複数言語を修得する必要性」は、ますます高まっています。その目的として、次の 3 つが特に重要だと思われます。

- ① 世界の人々と交流し、共存共栄するためのコミュニケーション能力と異文化理解能力を持つ。
- ② 書物やインターネットなどを通じて、日本語以外の言語で発信されている情報を理解する。
- ③ 他の言語を学ぶことを通して、母語である日本語の力を鍛える。

①と②は、学生の皆さんが社会に出た時、求められる能力だと言えます。しかし、③については、びんと来ないかもしれません。今回は、外国語を学ぶことが、母語の文章力を鍛えることにつながる例を挙げ、外国語学習の重要性を説きたいと思います。

本学の近所の公園の入口には、駐車禁止のマークとともに、次のような立て札があります。



公園利用のみなさまへ

ここに車を停めないで下さい。

車を停めていて、子供が何度かひかれそうになりました。

日本人には、この立て札の意味が理解できるかもしれませんが、日本語を学習中の外国人の方はどうでしょうか？

「車を停めていて、子供が何度かひかれそうになりました」という文は、日本語として奇妙な文です。日本語では主語を省略できますが、ひとつの文の中で、主語を勝手に変えてしまうと、動作主が誰なのか、判定し難くなります。

そもそも、「車を停めて」いたのは誰でしょうか？また、主語がないため、「子供」とは、車を停めていた人の「子供」という解釈も成り立ちます。すると、「(私が) 車を停めていて、(私の) 子供が何度か (他の車に?) ひかれそうになりました」という解釈さえ可能となってしまうのです。しかし、本当に言いたいのは「車が停まっていたため、子供たちが他の車に轢かれそうになる事態が何度かあった」ということでしょう。その場合、「車を停めていて」ではなく、「車が停まっていた」あるいは「車が止められていて」という表現にしないと、日本語としては変です。文の中で主語を必要とする言語では、こうした混乱はありえません。参考までに、英語とフランス語に訳した文を挙げておきます。

英：Because cars parked here, children nearly got run over several times by another car.

仏：Du fait des voitures garées ici, des enfants ont failli se faire renverser plusieurs fois par une autre voiture.

自分の意見を外国語で表現するには、文法だけでなく、その言語に特有の言い方を習得することが大切です。それゆえ、外国語の学習は、母語の表現についても、あれこれと考えをめぐらせることを促し、結果的に母語の文章力を鍛えることになるのです。

間違いやすい・誤解しやすい英語の表現

国際言語文化センター教授 津 田 信 男

英語を教え初めてからもう 25 年以上過ぎましたが、多くの日本人の学習者が英語を使う時に共通して間違いやすい・誤解しやすい表現 (common mistakes) があるようです。そしてその殆どの原因は、日本語から発想する場合に起こることが多いようです。ここでは、日本語から発想するとどんな間違い・誤解を招くか、いくつかの例を挙げて紹介しましょう。例は、あくまでもアメリカ英語ですので、イギリスやオーストラリアなどの英語と異なる場合がありますが、本来の英語の意味を理解していただき、今後の英語学習の参考にして頂ければと思います。

1. come と go

通常 come は「来る」go は「行く」と理解している学習者が多いと思いますが、相手の所に行く場合、come を使います。例えば、電話の会話で「今日の午後あなたの家に行く」は、“I’ll come to your house this afternoon.” になります。また、「3 時頃、車で迎えに行きます。」は、“I’ll come and pick you up around 3:00.” が適切な表現です。

2. sometime anytime などのあいまいな表現の解釈

私が留学していたとき、アメリカ人の知人から、“We should go skiing sometime.” と言われた時とても喜び、「いつスキーに誘ってくれるのだろうか？」と期待しました。ところが一向に誘ってくれる様子も無いので、この人は口先だけで嘘つきではないかと思ってしまったことがありました。また、別の知人からは、“You can come to my house anytime.” と言われたので、連絡なしでその人の家に行くに迷惑がられました。こういう場合の sometime や anytime などの表現は、あくまでも社交辞令ですので、皆さんは決して鵜呑みにしないよう気をつけてください。もし相手が本当に誘う気があるのなら、“Would you like to come to my house for dinner this Saturday?” などと具体的な表現を使うでしょう。

3. トイレの表現

英語でトイレと言うと、restroom, bathroom, toilet, lavatory, powder room などがあります。アメリカ英語では、家のトイレを bathroom、公共のトイレを restroom、女性用トイレを powder room と使い分けることが多いようです。

また、人の家でトイレを借りる時は、“Can I use a bathroom?” と尋ねます。「借りる」を直訳して、“Can I borrow a bathroom?” と言うと、トイレをどこかに持って行くと解釈されてしまいます。“borrow” は、ペン、CD など何かをその場から持ち去って借りる場合の意味です。また、アメリカ英語ではトイレを通常 toilet とは言いません。toilet は、「便器」という意味になりますし、WC はアメリカでは通じません。lavatory, toilet は、イギリスなどでよく使われる表現です。

4. 外来語

外来語は時として便利であり、使えるものが沢山あります。例えば、“nervous” “computer” “TV” “cake” “pizza” “hamburger” などです。しかし、そのまま使うと誤解を招いたり、意味が通じなかったりする場合もあります。例えば、車のハンドルやフロントガラスは、アメリカ英語では “steering

wheel” “windshield” となります。“handle” は、鞆などの持ち手を指します。エアコン（air conditioner）は、あくまでクーラーの意味であり、暖房の場合は、“heater” です。ストーブ（stove）はアメリカ英語では、キッチンにあるコンロの意味です。スマート（smart）は、日本語のような「からだつきがすっきりとして格好がよい」という意味は英語には全くなく、「賢い」という意味しかありません。

5. Yes と No の使い方の間違い

知人の日本人がアメリカで長距離バスに乗っていた時、隣の席が空いていたので、あるアメリカ人から“(Do you) Mind if I sit here?” と尋ねられました。そこで「いいですよ」と言う意味で、“Yes.” と答えたら、そのアメリカ人は少し変な顔をして、その場を立ち去ったそうです。ここで、“Yes.” と答えると、“Yes, I mind.” 「はい、気にさわる。」と強く断っている意味になります。正解は、“No, go ahead.” (No, I don't mind.) です。日本語で相手に同意する場合「はい」となんでも肯定文で答えるため、このような間違いが起こるのでしょう。

6. その他

「友達とよく遊ぶ」を “I often play with my friends.” と言うと、子供同士の遊びに聞こえます。大学生や若者の場合は、“I often hang out with my friends.” のように “hang out” という表現がよく使われます。また、大学何年生の場合、“grade” という単語ではなく “freshman”（1年生）“sophomore”（2年生）“junior”（3年生）“senior”（4年生）という表現が一般的です。“grade” は、高校生以下の場合に使われます。

このような間違いを防ぎ、もっと英語らしい表現を身につけるには、普段から英語に接し、英語でインプットするのが一番です。英語のDVD を字幕で観たり、英字新聞、雑誌、本などを読むうちに英語らしい表現を知ることができます。また、そのような習慣を続けて行くと日本語からではなく、自然に英語から発想できるようになるでしょう



「学生がよく間違える言語の表現」

国際言語文化センター准教授 柳 原 初 樹

皆さんが、今回のタイトルからすぐに連想されるのは、主として「書く行為」の間違いではありませんか。テストの採点をしていて、教員を喜ばせ、悲しませるのも「書く行為」の完成度です。

採点をしていて、○が連続すると快感を覚えますが、×や△が続くと、悲しくなります。「書く行為」の習熟度は概ね文法規則の理解度やシンタックス（統語法）と関係しています。

次に忘れてはならないのは、「言語表現」には、「話す行為」も含まれていることです。「話す行為」で大事なものは、「発音」、「アクセント」、「イントネーション」、「リズム」です。

以下、1)「話す行為」、2)「書く行為」において、「学生」及び「非母語者」が「よく間違える」点について、具体例をあげながら、その原因と克服方法について考えていきたいと思います。原因については、a) 母語からの干渉 b) 既習言語（主に英語）からの干渉に注目したいです。なぜなら、この干渉（interference）が負荷として作用するケースが最も多いからです。

1) 「話す行為」における負荷で最大のものは日本語からの影響です。日本語は「一文字=一拍」なので、ドイツ語の単語レベルでも、単語を分節して発音しようとする傾向が強いです。例えば、<ich=[iç]> や <und=[ʊnt]> という一音節単語ですら、「イッ・ヒ」とか「ウン・ト」と分節してしまう傾向が多々見受けられます。さらに、個人差がありますが、「イッ・ヒ」、「ウン・ト」の太字の部分にアクセントを付け、上昇イントネーションまでつけてしまう場合も見受けられます。文章レベルでは、<Ich studiere Jura : [iç ʃtudi:rə jú:ra]> という文章が、「イッ・ヒ↑シュトゥディーレ↑・ユーラ↓」となってしまう、間の抜けた、和声ドイツ語になってしまいます。おそらく、単語の下にカタカナで「読み仮名」を付けているのが干渉して、負荷となっているのでしょう。<Am Wochenende habe ich von 9 bis 16 Uhr gejobbt.> という少し長い文章になると、「読み仮名」だけでは対応できません。そこで、下の図を見てください。これは、音声学を研究しているドイツ人の教員と作成したのですが、個々の単語のアクセントだけではなく、文章の中でのアクセントにも注意を喚起するためのものです。（<http://www.kilc.konan-u.ac.jp/german/hatsuon2/>）

ドイツ語発音学習コンテンツ

Deutsch

男声 女声

Satzakzente (I)(仮題)

Ich.
●

Ich gehe.
● ● ●

Ich gehe ins Kino.
● ● ● ● ●

Ich gehe heute ins Kino.
● ● ● ● ● ● ●

Ich gehe heute abend ins Kino.
● ● ● ● ● ● ● ● ●

Ich gehe heute abend mit Freunden ins Kino.
● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

Satzakzente (I)
(仮題)

Back Next

INDEX 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22

次の図では、文章中のどの単語にアクセントを置くかで意味が変わる例（左）とメロディーやイントネーションの違いによって疑問文や命令文になってしまう例（中）を紹介しています。また、それらの発音を聞き、映像で口の動きを確認することも出来ます（右）。

Satzakzente (IV)(仮題)	Melodie(仮題)	Deutsch
SUSANNE WILL FRANZ NICHT.	Warten Sie!	Schließen Sie!
SUSANNE <u>WILL</u> FRANZ NICHT.	Warten Sie?	Schließen Sie?
SUSANNE WILL <u>FRANZ</u> NICHT.	Hören Sie mir zu!	Öffnen Sie!
SUSANNE WILL FRANZ <u>NICHT</u> .	Hören Sie mir zu?	Öffnen Sie?
SUSANNE, WILL FRANZ NICHT?	Schreiben Sie das auf!	Kommen Sie!
SUSANNE WILL, FRANZ NICHT.	Schreiben Sie das auf?	Kommen Sie?
SUSANNE WILL FRANZ, NICHT?	Nehmen Sie einen Schirm mit!	
SUSANNE WILL? FRANZ NICHT?	Nehmen Sie einen Schirm mit?	
SUSANNE WILL, FRANZ NICHT.		
SUSANNE WILL? FRANZ NICHT.		



Melodie(仮題)

Warten Sie!

Warten Sie?

Hören Sie mir zu!

Hören Sie mir zu?

英語からの干渉で多いのは、-ch,-tion という語の発音です。また、音節の最後に置かれた -b,-d,-g の発音の間違いです。これらすべてを克服するには、**正確な in-put と、積極的な out-put、そしてフィードバックの反復**以外にはないでしょう。**ドイツ人留学生のチューターの時間を積極的に活用してください。**

2) 「書く行為」における間違い： A) Gestern habe **Ich** gut geschlafen. B) Am wochenende bin ich **gegangen** mit meinem brother ins kino. これらは典型的な間違いの例です。A) では、ドイツ語の人称代名詞 < ich > が英語の < I > の影響を受けて、文中でも大文字で書かれています。次に B) では、ドイツ語では名詞の先頭文字は常に大文字で記されるという原則が忘れられています。B) では、また、**過去分詞が文末に置かれる**という原則がつつい慣れ親しんだ英語の語順の干渉を受けていますし、Bruder という単語が英語の brother と混同されている例です。Schwester/sister, Vater/father 等の混同も多いです。更に、日本語からの影響としては、「夏休みは実家に帰りました」という意味のドイツ語を書こうとして、「先生、『実家』って、ドイツ語で何と云うんですか」という質問がよくなされますが、ドイツ語には『実家』という表現はないので、「両親のもとに行った / 両親を訪ねた」という**発想の転換**をしてもらいます。又、多いのは、「夏休みは部活してました」ですが、この場合も、「部活では具体的に何をしていたのか、例えばサッカーの練習、合唱の練習等」、具体的に活動を表現してもらうようにしています。さらに、「教習所に通ってました」という表現もユニークです。結果として「運転免許」を取得したなら、「免許を取った」という結果の方が重要です。現在も通っているなら、「免許を取るために、教習所に通い出しました」という表現にしてもらっています。

しかし、この「書く能力」の完成度は、学生だけに限定されるものではなく、学習目標言語の非母語者全体に関係してきます。**日本語にはない「冠詞」（定冠詞、不定冠詞、無冠詞）の用例、更には単数・複数の違い、動詞のバリエーション**をマスターするのに最も時間がかかると思います。これも、原理・原則を習った上で、出来るだけ多くの文章に接し、in-put し、作文したり、プレゼンしたりのout-put、そして教員や母語者からのフィードバックという反復練習が必要でしょう。

最後に、**私自身の作文の間違い**を披露して、筆を置きたいと思います。日本語の引用文章は戦艦大和の水上特攻から奇跡的に生還した吉田満氏の『戦中派の死生観』からのものです。

吉田は、彼の世代（戦中派）は、「或る意味ではアイデンティティー過剰の時代」に生き、「日本人および日本の国家という、アイデンティティーの枠だけが強調され、その内容といえ、空虚きわまるものであった」と記している。

Yoshida schreibt, seine Generation (**die Kriegsgeneration**) habe im »Zeitalter der überflüssigen Betonung der Identität« leben müssen, als »Japaner und ihr Staat, sozusagen nur der Rahmen der Identität, betont wurden, **der in** aber sich darin nur leerer Inhalt **verborg**«.

間違い 1 : () 内の定冠詞欠如

間違い 2 : 最後の 2 行は関係代名詞文ではなく、重文にする。そして、動詞を barg から verbarg に変更する。

フランス語学習者へのアドバイス

～よくある間違いについて～

国際言語文化センター教授 ディディエ・シッシュュ

フランス語を学び始めた学生の皆さんにとって、最初から良い習慣を身につけることは大切です。そのために注意しなければならない幾つかの点を指摘しましょう。

1. まず、ほとんどの学習者が、中学校から英語を勉強してきたため、英語の影響から来る間違いが少なくありません。フランス語と英語は、共通の語彙が多いのですが、気をつける点を挙げておきます。

まず、フランス語におけるアルファベットの読み方は、英語とは異なります。フランス語で自己紹介をする時に、自分の名前のスペルを言うときは、フランス式に発音することが不可欠です。例えば G は、英語ではジーですが、フランス語ではジェと発音し、J は、英語ではジェイ、フランス語ではジーと発音します。

また、語彙に関して、若干の faux-amis（空似言葉）があるので注意する必要があります。faux amis とは、綴りが英語の単語に似ていても、意味が異なる単語のことです。例えば、フランス語の librairie と英語の library は似ていますが、英語では「図書館」、フランス語では「本屋」を意味します。または、英語の to pass という動詞の意味は「合格すること」ですが、フランス語で passer un examen という表現は「受験すること」を意味します。こうした faux amis は、それほど数が多いわけではありませんが、基本的な単語については、違いを意識するようにしてください。

2. 発音に関して、注意すべき点が幾つかあります。

まず、l / r や b / v の識別は非常に重要です。また、鼻母音と呼ばれる an [ɑ̃]・on [ɔ̃]・in [ɛ̃] などの発音は難しく感じるかもしれませんが、違いを意識して身につけることが不可欠です。基礎フランス語の教科書『Le français à la carte』の「発音練習」という項目で紹介されている例を参考にして下さい。国際言語文化センターのポータルサイトの「2012 年度 教科書」という項目には、準拠 CD の音源を置いてあるので、自宅で復習がしてください。

それから、口頭でのコミュニケーションにおいて、誤解を避けるために注意してほしいのが、動詞の最後の音節の発音です。特に、-er 動詞の場合、最後の音節の音の違いで意味が変わってしまいます。例えば、chanter（歌う）という動詞の発音をあえてカタカナで書くと「シャンテ」に近い音になります。しかし、現在形で「私は歌う」と言いたいなら、Je chante [ʒɑ̃t] で、この発音を参考までにカタカナで書けば「ジュ・シャント」に近いになります。ところが、多くの初心者が、[ʒɑ̃tə]、つまり「ジュ・シャンテ」と発音する傾向があるのです。「ジュ・シャンテ」では、Je chantais（私は歌っていた）という意味だと理解され、過去の話をしていると誤解されます。Je chante の最後の e は e muet（無音の e）ですので、「エ」と発音してしまうと意味が変わってしまうのです。

3. フランス語の会話では、話し手同士の親密度によって tu と vous という 2 人称を使い分けます。これは、日本語で、相手に対して「君」「おまえ」と言うか「あなた」と言うか相手によって区別するのに似ています。ただ、若い人たちは、それほど親しくない関係の場合も、会ってすぐに tu を使う傾向があります。学生同士の会話や、交換留学生のフランス人チューターには、tu で話しかけるのが自然でしょう。

4. 文法で一番難しいのは、冠詞の使いかたです。フランス語には、定冠詞 (le, la, les)、不定冠詞 (un, une, des)、部分冠詞 (du, de la) があり、どれを使うべきなのか、皆さんは迷う場合があるでしょう。実は、冠詞の問題は非常に複雑で、フランス人にとっても難しいので、皆さんは間違えても心配することはありません。

男性名詞と女性名詞の識別も簡単なことではありません。実は、名詞に性があるのは、フランス語だけではなく、英語を除くインド＝ヨーロッパ語の特徴です。ただ、フランス語では、無音の e で終わる単語が女性形である確率が高いということを、学習の最初の段階から念頭に置けば、少し楽になるでしょう。もちろん、例外もありますが、基礎レベルでは、基本的なルールをマスターすればいいと思います。

5. 最後に付記しておきたいことがあります。コミュニケーションの授業の目標は、日本語で考えたことを「訳す」ことではありません。例えば、日本語では、挨拶として「よろしくお願いします」という表現がよく用いられますが、他の言語でもこれに当たる表現があるとは限りません。フランス語で「よろしくお願いします」と言おうとすれば、merci d'avance か je compte sur vous となるでしょう。ただし、これらの表現は、具体的に何かを頼む時以外では使われません。

このように、日本語とフランス語で同じことを言えると思うのは誤りです。それぞれの言語は独自の世界を持っているからです。

フランス語を身につけるためには忍耐と努力が必要ですが、何よりも、「間違い」を恐れてはいけません。外国語だから、間違っても当然なのです。むしろ、間違えて、直すことが語学の上達の条件だと考えてよいでしょう。Bon courage !



コンコルド広場のオペリスク



パリの Pont des Arts (芸術橋) と
Institut de France (フランス学士院)

中国語のシンプルな文法をしっかりと把握すること

国際言語文化センター准教授 石 井 康 一

- よくある学生の間違いを通して、我々にとって中国語がどういう特徴をもった外国語なのかを見ていきましょう。
- ×我的书有桌子上。「有」「在」どちらも「ある」と読めるので、間違いやすいです。「有」は存在（何があるか）をあらわし、「在」は所在（どこにあるか）をあらわします。
 - 我的书在桌子上。（私の本は机の上にあるよ）
 - 桌子上有蛋糕。（テーブルの上にケーキがあるよ）重要動詞「有」と「在」の働きは、「在宅」「有人、有名」など日本語の中でも確かめることができます。
- 私たちが「漢字のネイティブ」であることは、英語を母語とする人が中国語を学ぶよりはるかに有利ですが、漢字ネイティブゆえの落とし穴ももちろんあるので注意が必要です。
 - ×我行。（私が行きます）
 - 我去。行くといえ、まずは「去」でしょう。「行」は「いい」という意味で、「不行！」は「ダメ！」です。「自行车（自転車）」など単語の中では行くという意味を持っていますが、単独で「行く」という意味では使えません。
 - 我去图书馆。×私は図書館を去る。○私は図書館へ行く。
 - 前置詞（介詞）を使って ○我到图书馆去。とも言えますね。
- 我比他高。（私は彼より背が高い）
 - 漢字を順番に読んで ×私と比べて彼は背が高い。これでは全く意味が逆になってしまいます。「中国語は漢字やから、意味は大体わかるわな」という人はたいてい間違っています。「比」は比較の対象を持って来る前置詞、前置詞句は必ず述語の前にきて、英語でいうと× I than you tall. という文型が中国語の比較構文です。わかりやすくシンプルにできている中国語の構造をしっかりと押さえて下さい。
- 彼は私より三つ年上だ。
 - ×他比我老三岁。（年をとっている＝「大」が出てこない）
 - ×他比我三岁大。（日本語の語順に引きずられる）
 - 他比我大三岁
- 私は来年の二月に行きます。
 - ×我去明年二月。
 - 我明年二月去。（こちらは日本語と同じ語順ですね）
- 私は中国に二回行ったことがある。
 - ×我去过中国两次。
 - 我去过两次中国。 回数が入るところに注意してください。
- パンを食べますか？それともライスにしますか？
 - ×你吃面包吗，还是吃米饭吗？ よくある間違いです。
 - 你吃面包，还是吃米饭？
 - 選択疑問文は、並べて还是でつなぐだけ これを覚えておいて下さい。
- 疑問詞疑問文は語順を変えずに疑問詞に置き換えるだけ。
 - 她是谁？（彼女は誰ですか）
 - 她是我妹妹。（彼女は私の妹です）
 - ？？你哥哥在哪儿工作吗？（お兄さんはどちらにお勤めですか？）
 - 哪儿（どこ）があるので文末の吗は不要です。
 - 你哥哥在哪儿工作？
- 你汉语学了多长时间了？
 - ×中国語をたくさん長時間学びましたか？
 - 二つの了の連用で、現在まで続いているというニュアンスが出ます。多にはhow（どのくらい）の用法があります。ですから How long time? ですね。
 - 中国語を勉強してどのくらいになりますか？
- その答えとして、快一年了，但是还说不好。
 - ×快適に一年が過ぎましたが、まだよくないと言います。
 - もうすぐ一年になりますが、まだ上手に話せません。
 - 快…了のセットで、まもなく…になる、说不好はひとつのかたまり、結果補語「好」（ちゃんと…する）の前に「不」を挟んだ可能補語の否定形、ちゃんと話すことができないという意味です。
- おいしかった。

×好吃了。了は不要です。中国語の過去の表現に注意しましょう。

○非常好吃。(とってもおいしかったです)

我昨天跟她一起去看电影很有意思。私が昨日彼女と一緒に見に行った映画はとても面白かった。「我昨天跟她一起去看」が「的」の働きで「电影」にかかっていくという構造をとらえて下さい。

●疑問詞が不定のものを指す用法

○你吃什么？(何食べますか？)

○你吃什么吗？(何か食べますか？)

日本語の「何」と「何か」の使い分けに相当します。

●動詞と名詞が同じ形の単語はたくさんあります。

一天工作八个小时。 一日8時間働きます。(工作は動詞)

这是我的工作。これが私の仕事です。(工作は名詞)

工作という語が、ある文では名詞として機能し、またある文では動詞として機能すると捉えた方がいいと思います。

●请告诉我你的手机号码。

×私とあなたの携帯番号を教えて。

○あなたの携帯番号を私に教えて。

[tell me your cell phone number]と同じ文型ですが、me、yourの格の変化がないので、見分けないといけません。中国語は語順が大切、語順が命。请告诉我、你的手机号码。意味のかたまりを意識して読んで下さい。

●「ここは禁煙ではないですか？」「すみません、知りませんでした」

这儿不是禁烟吗？

对不起，我不知道。(×すみません、私は知りません)

おかしな返事ですね。確かに「私は知りません」と訳せますが、会話の文脈の中で「知りませんでした」ということが表現できています。

●レストランで「すみません」と言いたい時に…「？？对不起！」これは謝罪の言葉です。

○服务员！点菜！

「店員！料理を注文する！（直訳）」と言っているようで気になるでしょうか。中国語はこれで過不足なく十分です。

●北京のバスでよく耳にする「没票买票！（切符を持っていない人は買ってください）」、たった4音節の中に意味が凝縮しています。没票＝切符がない・买票＝切符を買う。これで文が成立しています。

●同じ漢字でも微妙に違う。同形で意味が分かるような単語も要注意です。ある程度重なっているのも、同じような気がするのですが……同じ「愛情」でも中国語の「爱情」は男女間にのみ使います。

●これは学生ではなく私の間違いですが、タクシーの運転手に「首都剧场（首都劇場）」と言った時の発音が悪くて「首都机场（首都空港）」に連れて行かれそうになったことがあります。剧场 jùchǎng、机场 jīchǎng、運転手の勘違いもあるかもしれません。「首都剧场」だけでなく、「王府井大街、首都剧场（王府井通りの首都劇場へお願いします）」と工夫して言えば間違いを防ぐことができますね。

●発音について

クリアすべき問題は声調です。第一声を高いところで突っ張って、第二声は急上昇、第三声は低いところで抑え込んで、第四声は高い所から急降下。ひとつアクセントを間違えると、影響で次の字のアクセントも狂ってることがよくあります。授業中に大きな声を出して、身体で覚えましょう。ピンインを通して中国語を学んでいますが、漢字の発音を覚え、ピンインなしで漢字を直接読めるようにならなければいけません。少しずつ進歩していきましょう。

●10月の末に福建省の厦門（アモイ）の近くにある漳州で開かれた学会（老舍国際学術研究会）に行きました。日中関係の懸念から一時は行けなくなるのではと心配しましたが、中国側の主催者の温かいもてなしを受け、研究発表もでき、不愉快な思いをすることは一度もない有意義な出張の旅になりました。関空からの直行便はないので台湾の台北経由で行き、経由地で大陸の中国語と台湾の中国語の微妙な差異も体験できました。

●学生の皆さん、中国語は難しいですか？どんなところが難しいと感じますか？皆さんは英語と同時に中国語を勉強しているわけですから、時に混同するのも無理ありません。シンプルな中国語の構造を把握すると、一気にわかりやすくなります。自分の将来の可能性を拓けるために、しっかりと中国語を勉強しましょう。月曜昼休みに私が待機している中国語学習相談アワー、月・木・金の4:20 - 6:00の中国人留学生によるチューター。大学が授業のほかにも皆さんのために用意した学習機会を利用しない手はありません！場所は6号館5階中国語・韓国語学習指導室です。またこの文章を通して、他の第二外国語を学んでいる学生にも中国語に関心を持ってもらえたらと思います。



福建省の世界遺産「土楼」（土と木材で作った、数百年の歴史を持つ4、5階建ての集合住宅）外観と中庭から

留学生にとって難しい日本語表現

国際言語文化センター日本語特任講師 富 阪 容 子

私は秋学期、中級クラスのための「日本語会話」の授業を担当しているので、その授業の中で体験したことを中心に述べたいと思います。9月に来日した留学生たちの大半はホストファミリーのお宅にお世話になっています。彼らの話を聞いてみると、家族の一員としてどんなに大事に迎えられているかがわかります。どんな日本の食べ物を知っているかを聞いてみたら、彼らの生活ぶりがよくわかります。秋には秋のおいしい果物をいただいています。毎日ごちそうを作っていただいているのはもちろんのこと、いろいろな特別な観光地にも連れて行ってもらっているようです。どこか観光旅行に行ったら必ず何かおみやげを買ってくるという日本の習慣にもなじんできているようです。ある日のこと、日本語授業が休憩になると、ある学生が次のように言いました。

「私は名古屋へ行きました。これはおみやげです」と、みんなに一つずつ配ってくれました。そのお菓子をもらったクラスメートはみんなうれしそうに口にしていました。この学生の思いやりの気持には私も感謝したものです。ただ、会話の授業を担当している私にとって考えさせられることが多いです。日本語学習者は「名古屋へ行ってきました」という表現が使えないのです。「名古屋へ行きました」という表現は決して間違っているわけではありませんが、あと一步の表現力の向上が望まれるのではないのでしょうか。

ホストファミリーの家から朝出かける時「行ってきます」と挨拶することには慣れているでしょうが、その過去形の「行ってきました」という表現には慣れていないのです。「ただいま」「お帰りなさい」という挨拶表現には慣れています。旅行から戻ってきた人に「いつ帰ってきたんですか」と聞いても、「昨日帰りました」としか言えなくて、「昨日帰ってきました」とは言えません。彼らは週末には遅くまで友達と付き合うかもしれません。やっと帰宅した留学生に向かってホストファミリーが「晩御飯は？」と尋ねると、「食べました」と返事するでしょう。でも「もう食べてきたんです」とは言えないのではないかと類推しています。「～てくる」「～ていく」「～ている」「～てある」「～てくれる」「～てもらう」などの補助動詞を使用することはかなり困難なことと言えます。これらは間違えやすい日本語と言えますが、上述したように「誤用」というより「非用」（使うべきところで使えないこと）が問題になることが多いようです。

ある留学生たちは寮で生活しています。寮で生活する場合の良い点は日本人学生とも食堂などで顔を合わせることができるということです。ただ、初めのうちは言葉の壁があって、なかなかうまくコミュニケーション活動をすることができないようです。彼らが通学するために寮を出る時には、「行ってらっしゃい」と声をかけてくれる人がいます。しかし、「行ってらっしゃい」と送り出してくれた人に、どういう言葉を返したらいいかわからないと言います。笑顔で挨拶してくれる人に対して失礼なことがないようにしたいと考えているために戸惑っています。レストランとか居酒屋へ行った時も同じだと言います。「いらっしやいませ」と気持ちよく声をかけて招き入れてくれるけど、そう言われた時にどういう言葉を返したらいいのだろうかという疑問を抱いています。それぞれの場にふさわしい行動をとりたいし、適切な言語表現を学びたいという意欲がいっぱいです。自分の国で既に1年以上、日本語を学習してきたはずなのに日本で経験することのすべてが新鮮な驚きの連続なのです。だからこそ留学することには大きな意義があると言えるでしょう。

「みなさんは味噌汁が好きですか。その中には何が入っていますか」と聞いてみると、彼らは「豆腐とりのり」と答えました。「え？のり？」と問い返したら、「わかめ」だと判明しました。「豆腐とわかめが入っています」と返答できる人は少ないです。「入っている」と「入れてある」の違いも間違えやすい点です。テキストの文法項目としては必ず学習することになっていますが、文法を学習したからといって、実践の場で正しく使い分けられるとは限らないのです。



「先生、質問があります。『戻る』と『戻す』はどう違いますか」

これは初中級の学生から発せられた質問ですが、自動詞と他動詞の使い分けは上級の学生にとっても難しくよく間違えます。「戻る」は自動詞で、「戻す」は他動詞などの説明だけでは何の役にも立ちません。文法的な知識を得ただけでは実際の日常会話を運用するのに十分ではありません。「飲み物を冷蔵庫に戻す」とか「私はちょっと出かけてきますが、7時ごろに戻ってきます」などという例文を挙げてみても、まだちゃんと理解できるとは限りません。

先日、岡本キャンパスでは避難訓練が実施されて、授業中に何回かアナウンスが流れました。そのたびに授業が中断されましたが、アナウンスを聞いた留学生たちは冷静で、次のように言いました。

「こんな訓練はアメリカでもよくあります。《学校から出かけてください》というわけですね」

この学生が言おうとしていることはよくわかりましたが、「出る」と「出かける」の違いを間違えていることに気づきました。この発言はクラス全員が聞いていたので、そのタイミングを利用して2つの言葉の違いに注目してもらうことができました。

「日本語会話」授業担当者の私は、学生にどんどん積極的に質問してもらいたいと希望しています。日本語で質問をすることが最初の一步です。質問を投げかけられた私も懸命にその答えを探してみますが、なかなか容易なことではありません。教える立場の私にとって教えられることが多い日々です。どれだけ有効な答えを返すことができるかはわかりません。でも、学習者たちは試行錯誤しつつ経験から学ぶことも多いと思いますから、「失敗を恐れずにどんどん使ってみてください。どんどん間違ってください」と言いたいです。間違った日本語を耳にした日本人はすぐに否定しないで励ましながら導いてください。間違いを何度も繰り返して初めてそこから上達への道が開けることでしょう。近い将来にはきっと自信を持って日本語を話せるようになるでしょう。今後どんどん成長していく姿を見ることを楽しみにしています。



国際交流委員会による歓迎会



日本語クラスにおける留学生たち